

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年3月18日

八戸学院第二しののめ幼稚園

## 1. 本園の教育目標

「明るく元気な子」

「心の豊かな子」

「自分の考えをもてる子」

## 2. 本園の特色

(1) 体験や行事を通して学びの芽ばえを育てる表現活動

(2) 自然体験を通して育てる喜びと食育活動

(3) 八戸学院大学、八戸学院大学短期大学部と連携した教育活動

## 3. 令和3年度重点目標の達成および取組みの状況

### 重点目標【個性ある教育の推進】

#### < 1 > 研修の充実

① 教員の資質向上

② 園外研修への推進(キャリアアップ研修・乳幼児保育研修)

③ 園内研修の充実(いきいき青森っ子健康づくり事業、健康教育実践)

#### < 2 > 教育環境の充実

① 保育の振り返り・保育の充実

② カリキュラムの見直し

③ 体験学習の充実

④ 幼小連絡の充実

#### < 3 > 法人上級学校との連携を図る

① リトミック指導

② 英語教室

③ 造形教室

④ 運動教室

⑤ 八戸学院大学短期大学部ゼミ学生との交流

#### < 4 > 子育て支援の充実

① 未就園児教室の実施

② 教育講演会を開催

③ 園庭開放

< 5 > 特別支援教育の充実

- ① 関係機関との連携
- ② 関係研修に参加する

< 6 > 園内環境の整備

- ① 安全性を備えた安心感のある施設環境を形成
- ② 砂場の消毒、ままごとなどの衛生管理

**達成度と取組み状況**

※評価 (A…十分な成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

目標項目	評価	取組み状況
< 1 > 研修の充実		
① 教員の資質向上	B	教職員自己評価「保育の計画性」(3.00)、「幼児理解と指導」(3.23)、「保健安全管理」(3.09)、「研修と研究」(3.28)によると、概ね自己研鑽していることが窺えるが、園全体としての取組みが十分ではなかった。
② 園外研修への推進	A	令和4年1月11日現在、16研修/延35名(専任教員6名)が外部研修を受講した。
③ 園内研修の充実	B	音楽(主にピアノレッスン)研修5回、法人系列幼稚園合同研修会1回を実施し、技術の向上と子どもの発育発達に関する理解を深めた。
< 2 > 教育環境の充実		
① 保育の振り返り・保育の充実	A	教職員自己評価「日々の計画の見直しや反省を行っている」(3.13)、「Plan(目標)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を行っている」(3.00)と個々の教員は行っていた。また、月例職員会では行事の振り返りや園児の様子を共有した。
② カリキュラムの見直し	C	目標項目「保育の振り返り・保育の充実」「幼小連携・接続の充実」と連動させ改編すべきところ、個々の教育内容・方法等は改善されたものの、年間の教育課程の見直しには至らなかった。
③ 体験学習の充実	A	小動物・昆虫・メダカ等の飼育、野菜の栽培と収穫作業、お料理会、さくらんぼ狩り、せんべい焼き体験、職場訪問、虫取り(美保野)、もちつき、そり遊び(種差)など、自然や人との関わる様々な体験プログラムを実施した。

目標項目	評価	取り組み状況
④ 幼小連携の充実	C	新型コロナウイルス感染状況の影響で、計画的な実施を行うことができず、近隣小学校と個別での情報交換・共有に留まった。
< 3 > 法人上級学校との連携を図る		
① リトミック指導	A	年長クラス対象に4回、年中クラス対象に1回実施した。
② 英語教室	A	全園児対象に8回実施した。
③ 造形教室	A	全園児対象に3回実施した。
④ 運動教室	A	年少クラス対象に6回実施した。
⑤ 八戸学院大学短期大学部 ゼミ学生との交流	B	短大幼児保育学科の4つのゼミナールが来園し、絵本の読み聞かせやリズム遊び、運動遊び、外遊びなどを通して、交流を図った(計5回)。また、行事(お遊戯会)ボランティアとしての参加もあった。
< 4 > 子育て支援の充実		
① 未就園児教室の実施	B	年間10回を予定していたが、新型コロナウイルス感染状況の影響で4回の実施となった(令和4年1月現在)。
② 教育講演会を開催	A	参観日(10月)に青森県レクリエーション協会高橋昌樹氏(法人職員)を招聘し、全園児とその保護者を対象に「親子で楽しむレクリエーション」を実施し、親子の触れ合いを通し絆を深めた。
③ 園庭開放	B	新型コロナウイルス感染対策として、土曜開放は実施せず、降園後の開放のみ行った。
< 5 > 特別支援教育の充実		
① 関係機関との連携	A	地域のクリニックや支援センター、児童発達支援事業所と情報交換・共有を図るとともに、保護者を含めた三者連携がなされた。
② 関係研修に参加する	B	特別支援に特化した研修を受けることはできなかったが支援を要する園児が在籍しているクラスの教員がそれぞれ専門テキストや資料等で自主学習・自主研修を行った。
< 6 > 園内環境の整備		
① 安全性を備えた安心感のある施設環境を形成	B	天井の補修および2階ベランダの防水補強、教室の床の張替えを行った。園舎外壁のひび割れ、園庭フェンスの変形箇所などの補修が未完である。

目標項目	評価	取り組み状況
②砂場の消毒、ままごとなどの衛生管理	A	砂場遊びの安全・衛生に配慮し、砂場の消毒を行い、園児が衛生的かつ安全に遊べる環境整備ができた。

#### 4. 総合的な評価

評価	理由
B	重点目標が多岐に渡ったことから、取り組みが不十分で目標達成に至らない項目もあった。特に、園の教育活動の根幹となるカリキュラムの見直し（特に、コロナ禍における幼小連携・接続プログラム）に関する取り組みが進まなかったことは猛省すべき点と認識している。しかしながら、園内の教職員同士の連携により他の教育・保育活動は円滑かつ効率的に実施することができ、教育効果があったと評価する。

#### 5. 今後取り組む課題

課題	内容
幼小連携・接続	小学校との交流および連携を図り、接続プログラムを計画的に実施できるよう計画を立てる。
教職員の資質 および専門性の向上	各教職員の課題や経験等に応じた研修を受講するなど、幼稚園教諭としての人格と資質向上を図る。特に、発達課題を抱える園児に対して必要な支援や働きかけ、適切な対応が講じられるよう、研修を受ける。
園内施設・設備の 安全整備	園舎や園庭の設備・備品・教具・遊具の修繕・修理を行い、園児の健康と安全確保を図る。また、年間を通して感染症対策を行い、夏季・冬季の室内環境を整える。

#### 6. 学校関係者評価委員の講評（令和4年2月14日開催）

目標の達成度については概ねクリアしている。コロナ禍にあって教育・保育活動や行事について様々な規制がある中、園児がのびのびと過ごしている様子が見えた。また、行事に積極的・自主的に関わろうとする保護者がいることが心強い。地域で育てる雰囲気づくりをさらに進めてくださると有難い。

以上